

分詞構文 2

1. 分詞構文の応用の応用

変な題になりましたが、気にせず参りましょう。

1 完了形の分詞構文

完了形の分詞構文は、動詞ではなく **have** を **having** にして表します。

例文：

After I had finished my homework, my mother came home.

(私が宿題を終えた後、母が帰ってきた。)

やり方は分詞構文 1 で解説している過去形や現在形の文とほぼ同じです。

最後だけ注意して下さい。

a. 接続詞を省く

接続詞は **After** です。これを省略します。

I had finished my homework, my mother came home.

b. 主語を省く。ただし、異なる場合は残す。

コンマの前後で主語が同じならば省略します。この文は両方 **I** なので省略します。

had finished my homework, my mother came home.

c. **have** を分詞にする。

have を **having** にします。

Having finished my homework, my mother came home.

「**Having finished my homework, my mother came home.**」これで完成です。動詞ではなく **have** を分詞にすることを覚えて下さい

2 否定文の分詞構文

次は **not** のある文を分詞構文にしてみます。手順は肯定文と同じですが、**not** が文頭に来ることに注意して下さい。

例文：

Though you did not do it, you should apologize to her.
(君がそれをやっていないとしても、彼女に謝るべきだ。)

この否定文を分詞構文にしてみます。

a. 接続詞を省く

接続詞は **Though** です。これを省略します。
you did not do it, you should apologize to her.

b. 主語を省く。ただし、異なる場合は残す。

コンマの前後で主語が同じならば省略します。この文は両方 **you** なので省略します。
did not do it, you should apologize to her.

c. 動詞を分詞にする。

do を **doing** にします。
did not doing it, you should apologize to her.

d. 助動詞を省き **not** はそのまま。

助動詞の **did** を省きます。そして、**not** はそのままです。
Not doing it, you should apologize to her.

「**Not doing it, you should apologize to her.**」これで完成です。助動詞を省いて **not** を文頭にするのを忘れずにして下さい。

また、**never** を使う否定文もあります。**never** に関しても、手順は **not** と場合と全く同じです。ただ、**never** 自身は、分詞の前後どちらに置いても OK です。

例文：

Because I have never been to USJ, I don't know what it is like.

(僕は USJ に行ったことがないので、どんなのか知らない。)

Never having been to USJ, I don't know what it is like.

Having never been to USJ, I don't know what it is like.

2. 独立分詞構文

1 付帯状況を表す with＋独立分詞構文

分詞構文 1 で解説していますが、独立分詞構文とは、コンマの前後で主語が違ふ分詞構文です。これに **with** をつけて、付帯状況（～を…して）を表します。

「**with＋名詞＋ing**」この形になります。-ing ではなく過去分詞の時もありますので、両方の例文を挙げます。

○ with＋名詞＋ing

例文：

A cat was walking with its eyes shining in the moon.

（猫が月光に目を輝かせて歩いていた。）

○ with＋名詞＋過去分詞

例文：

He sat on the chair with his legs crossed.

（彼は足を組んでイスに座った。）

この文は本来

He sat on the chair and his legs were crossed.

この形です。これを、with＋独立分詞構文にすると、

He sat on the chair with his legs being crossed.

受け身の **being** が出来てしまいます。受け身の **being** は省略するので、過去分詞が使われています。

2 独立分詞構文の慣用句

よく出ます。文を何回も読んで覚えて下さい。

○ **Generally speaking,** 一般的に言って

例文：

Generally speaking, the young are more vital than the elderly.
(一般的に言って、若者は年配者よりも活気がある。)

○ **Judging from,** ～から判断すると

例文：

Judging from the sky, it will rain soon.
(空から判断すると、すぐに雨が降りそうだ。)

○ **Frankly speaking,** 率直に言うと

例文：

Frankly speaking, you failed.
(率直に言うと、君は落第した。)

3. 分詞構文のその他

1 接続詞のある分詞構文

意味をハッキリさせるとき、分詞構文なのに接続詞がある場合があります。

例文：

Walking in the park, I found a purse.

この文は、

「私が公園を歩いていた時、財布を見つけた。」

「私が公園を歩いていると、財布を見つけた。」

どちらも解釈できます。こんな場合は、誤解を避けるために分詞構文だけでなく接続詞をつけます。この場合、以下のどちらでも OK です。

When walking in the park, I found a purse.

(When I walked in the park, I found a purse.)

「私が公園を歩いていた時、財布を見つけた。」

While walking in the park, I found a purse.

(While I was walking in the park, I found a purse.)

「私が公園を歩いていると、財布を見つけた。」

2 and の意味をもつ分詞構文

分詞構文の中には、そして～（ and ）を意味する場合があります。

例文：

The bus arrived at seven, and started at eight.

= The bus arrived at seven, starting at eight.

（バスは7時に到着し、8時に出発した。）

分詞構文は覚えることが多すぎて大変です。でも、諦めずにコツコツ頑張りましょう。

Copyright (C) 2008 All Rights Reserved, ちょいデブ親父の英文法